

# 「居場所プロジェクト」について

## (1)取組概要

●生活困窮者支援にとどまらず、より幅広い分野・視点での「居場所」に関する情報共有・協議・実践を行うことで、さまざまな人の「社会参加」の支援を行う。

## ◆プロジェクト参加機関

区分	所属	氏名
商工、労働機関関係者	阪神南障害者就業・生活支援センター主任就業支援担当	藤川 喜正
障がい者相談支援関係者	芦屋市障がい者基幹相談支援センターセンター長	三芳 学
若者相談関係者	(福) 芦屋メンタルサポートセンターセンター長	杉江 東彦
福祉団体関係者	(福) 芦屋市社会福祉協議会	針山 大輔
生活困窮者自立支援関係者	(福) 芦屋市社会福祉協議会 相談支援員兼就労支援員	黒田 樹里
	(福) 三田谷治療教育院 就労準備支援担当	佐藤 久愛
地域づくり支援関係者	(福) 芦屋市社会福祉協議会 第1層地域支え合い推進員	寺岡 康世
市民参画活動支援団体関係者	特定非営利活動法人あしやNPOセンター	株本 就子

## 第2回目ゲスト

区分	所属	氏名
生活困窮者自立支援関係者	(福) 山の子会 地域まなびの場支援事業 学習支援相談員	若林 伸和

## 事務局

	所属	氏名
こども福祉部福祉室 地域福祉課	主幹（地域共生推進担当）	吉川 里香
	地域福祉係長	亀岡 菜奈
	地域福祉係	島田 友美

## ◆会議開催 ※今年度3回実施予定

	日時
第1回（済）	9月11日(水) 13:00～15:00
第2回（済）	11月28日(火) 10:00～12:00
第3回	未定(1月～2月)

## (2)第2回目の開催報告

### ◆協議内容

【2回目以降の活動について協議】 =会議体のフレームづくり=  
前回までの居場所プロジェクトで考えた3つの視点「居場所の周知・共有・創設」をベースに、新たに参画した子ども・教育・まちづくり分野とも協働しながら、「居場所」をキーワードに取組を話し合う。

### ◆各分野の現状、困りごとの共有



#### <障がい>

- ・夕方時間帯の居場所がほしい。また、「つむぐ広場」のようなところが小学校区に一か所あるのが理想だが、担い手の課題がある。
- ・地域との関わりとして、こども食堂等の居場所とのコラボも考えたい。(高齢分野は実施時間帯が合わない問題がある。)

#### <社会的孤立(困窮・不登校・ひきこもり)>

- ・居場所はあるものの利用者が少ない。
- ・既存の居場所はグループの考え方もあり、入りにくいものもある。ホストの丁寧な関わりがないと入れない。
- ・居場所のニーズ(必要性や内容、場所など)把握や周知が難しい。

- ・みんなが使える「場所」を決めて、様々な分野の人が役割を持って活躍できる居場所があるといい。
- ・居場所をつくるのではなく、既存の居場所やグループのつながりをつくる「場づくり」が大切。
- ・既存の団体にも役割をお願いすることで、団体の意欲も上がる。
- ・“交流会”という名目では来ない人がいるので、結果として“交流“(居場所の周知やネットワークをつなげるきっかけ)になる仕掛けが必要。
- ・社会的孤立の人にどのように伝えて仕掛けていくのか、ターゲットを絞る必要がある。
- ・役割がある居場所のほうが参加しやすい。

